

伊勢原市内の学校の創立と
現在までの変遷の歴史

(含 学校長等の推移)

発刊に際して

或る日、娘の卒業した高校の校友会誌を見ていたら、学校の創立や変遷が概要で書かれていました。興味深く読んでいたうちに、市内の小、中学校について、創立から現在までを調べてみようと思ったのが切っ掛けでした。

筆者も昭和八年、片田舎の小学校に入学、そして転校して、大磯尋常高等小学校を卒業したので、戦前については多少なりとも経験でき、戦後は娘や孫の教科書を参考に出来たので、教年前から勤務の余暇を利用して図書館に行き、資料をまとめようとしたのですが、学校ごとの記念誌が四、五冊あるのみで、まとまった資料としてなかったのが実情でした。

今回、体験やこれらの資料と教科書を基にして一冊に整理してみました。

最初の発刊ですので、人名等の誤記がありましたらお教えいただければ幸いです。本稿によって、学校の創立、変遷等を知る上で、何らかの参考になれば幸いです。

荻野 堯

目次

発刊に際して 一

学校の成立と教育の変遷 四

戦前の学校教育 六

戦後の学校教育 八

教師および児童の服装 一〇

課外における子供の動き 一一

学校内外の世相 一三

教育委員会歴代教育長 一四

伊勢原市内における学校の概要 一五

伊勢原小学校の推移 (二七)

大山小学校の推移 (二八)

比々多小学校の推移 (二九)

高部屋小学校の推移 (三〇)

成瀬小学校の推移 (三一)

大田小学校の推移 (三二)

桜台小学校の推移 (三三)

竹園小学校の推移 (三四)

緑台小学校の推移 (二五)

石田小学校の推移 (二六)

伊勢原中学校の推移 (二七)

山王中学校の推移 (二八)

成瀬中学校の推移 (二九)

中沢中学校の推移 (三〇)

伊勢原高等学校の推移 (三一)

伊志田高等学校の推移 (三二)

向上高等学校の推移 (三三)

学校長 教頭職の推移 一六

明治初年より昭和二十二年までの学校長

伊勢原小学校 学校長 (三四)

大山小学校 学校長 (三四)

比々多小学校 学校長 (三五)

高部屋小学校 学校長 (三五)

成瀬小学校 学校長 (三六)

大田小学校 学校長 …………… (三六)

昭和二十二年から現在までの学校長、教頭

伊勢原市立小学校 学校長 …………… (三八)

伊勢原市立小学校 教頭 …………… (三九)

伊勢原市立中学校 学校長 …………… (四〇)

伊勢原市立中学校 教頭 …………… (四一)

県立伊勢原高等学校 学校長・教頭 …………… (四二)

県立伊志田高等学校 学校長・教頭 …………… (四四)

私立向上高等学校 学校長・他 …………… (四六)

あとがき …………… 四七

参考資料 …………… 四八

伊勢原市内の学校の所在地と電話番号 …………… 四九

学校の成立と教育の変遷

明治五年八月三日、明治政府は「学制の公布」を施行。全国統一された教育制度である。

従来は、富裕の子弟を対象とした寺子屋教育が行われ、貧農の子弟はこの教育すら受けられず、成人しても文盲の人が多かった。

政府は、文盲をなくすために教育に力を入れはじめた。全国を八大学区とし、一大学区には三十二の中学区をおき、一中学区は二一〇の小学区に分類され、この制度に基づいて教育が行われるように定めた義務教育制度である。

しかし実際には、寺の本堂や農家の広間を借用しながらの寺子屋教育から、すぐに校舎が造れるわけでもなく、先ず敷地の場所、規模の計画、そして敷地の確保、校舎の建設と費用の捻出、その上、子弟の学区割り、また教師の資格など、問題が多く発生した。

当時、教師は寺の住職や医者、または旧武士で、学問を身につけた人々であったが、教員の資格、免許などは持っていなかった。

当初伊勢原においても、伊勢原、大山、高部屋、比々多、成瀬、大田の各地区とも学校とは名ばかりで、実際には、お寺の本堂や民家を利用しての学校であった。

しかし、時を経るにつれて学校の規模や土地の確保、校舎の建設の気運が高まり木造校舎が出来て、同地区のいくつかの学校が合併したりして淘汰されていった。

明治二十一年には、尋常科四年、高等科も四年となり、尋常科は義務教育となった。

明治四十一年には、尋常科六年、高等科は二年となり、同じく尋常科は義務教育である。

大正八年には、文部省は、小学校令、中学校令の改正を行い、国民道徳の養成を強調している。

大正十二年には、町村立尋常高等小学校と呼称するよう指令されている。

昭和十年四月一日には、実業補修学校と青年訓練所を併合して、青年学校が創立され義務教育制となった。

昭和十二年七月、日中戦争が始まるや、国内は次第に戦時体制へと進み、昭和十六年四月、政府は、国民学校令を

公布し、従来の町村立尋常高等小学校（地方によつては、尋常小学校のみの学校も有る）は、町村立国民学校と改称された。

同年七月には、文部省より「臣民の道」なる刊行物を各学校に配布、盡忠報国の精神を涵養する教育へと進んでいった。

大学、専門学校の在学年数も短縮が決定されている。同年十二月には、太平洋戦争に突入し、戦争が激しくなるにつれて、大学、専門学校の学生は、学徒動員として軍事教練を経て戦地へ出撃させられて行った。国民学校の高等科生徒や中学校生徒（旧制）なども、軍事教育強化方針が発表され、竹槍などで銃剣術訓練を行い軍事教育が行われていった。

児童の就学義務は、満十二歳まで引き下げられ、初等科生徒は都市部において集団疎開が実施され、十七歳以上は兵役編入という特殊な世相に変化していった。

小学校の児童は、防空頭巾すかんを用意し、空襲が激化する度に防空壕に避難したりで、授業は疎かになっていった。そ

の上、教科書用の紙もなくなり、藁半紙にガリ版刷りの教科書に変わっていった。

昭和二十年八月、ポツダム宣言受諾により、太平洋戦争は終結された。

同年十二月末、アメリカ総司令部は日本の教育について改革を指示し、修身、日本歴史、地理の授業停止を指令した。青年学校は、廃止された。

昭和二十二年三月末に、教育基本法、学校教育法が施行された。

小学校六年、中学校（従来の高等科）三年、高等学校（従来の中学）三年、の教育となった。いわゆる六・三・三制の実施である。公立ばかりでなく、私立の学校にも適用されている。

ここに於いて多くの問題が発生した。

従来の高等科は、小学校と分離し、中学校になった事で、敷地の確保、校舎の建設等が必要になった。校舎がなくとも、中学校として発足しなければならず、一時、小学校の教室を借りての授業である。

昭和二十四年から二十五年にかけて、ほぼ校舎が完成し、伊勢原においては、小学校六校、中学校六校、高等学校一校となり発足している。昭和三十年代から五十年代にかけて伊勢原の人口増加に対応して、学校も整備されて、現在は市立小学校十校、市立中学校四校、私立中学校一校、県立高等学校二校、私立高等学校一校となっている。

戦前の学校教育

戦前(昭和二十年以前)の教科書は尋常科、高等科とも、全国統一された「文部省」検定の教科書である。

内容として、修身、国語は偉人伝、古事記・日本書紀の神話、戦役、産業と工業、そして日本の民話、イソップ物語、アンデルセン童話など、幅広く扱っていた。また、人間形成に役立つための内容も多く含まれている。

例えば、中江藤樹、伊能忠敬、本居宣長、松下禅尼、二宮尊徳、渡辺崋山、等が修身、国語に多く取り上げられている。

教育勅語の暗記も必要であった。しかし、この中には、現在においても充分適用する文面も含まれている。

「……父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ共儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ学ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ知能ヲ啓発シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ広メ世務ヲ開キ常ニ国憲ヲ重シ……」であろう。

大正年代の国語読本では、白黒の印刷でカタカナである。

「ハナ」 「ミノ」

ハト カサ

マメ カラカサ

マス

昭和八年から小学校の国語教科書は色刷りで、カタカナである。

「サイタ」 「コイコイ」 「ススメ」

サイタ シロ ススメ

サクラガ コイ ヘイタイ

サイタ ススメ

二学年からは、国語教科書も同じく色刷りで、「春が来た」「富士山」「村まつり」があり、小学唱歌にも採用されている。

歴史では、戦役の項も多く占められ「前九年の役、後三年の役」「保元、平治の乱」「平家の滅亡」「元寇」「関ヶ原の戦」「応仁の乱」「日清、日露の戦役」等で、又、仏教文化にも力を入れ、逸話や歌なども登用されている。

昭和十年頃の小学校低学年の教科目としては、修身、国語、算術、書方、綴方、体操、唱歌、図画、手工で、高学年になって理科、地理、歴史がふえている。また、算術の中には算盤（そろばん）も含まれていた。

いずれも「文部省検定」の国定教科書であり、全国一律に使用されたので、転校してもそのまま使用でき、また、弟や妹たちにもこの教科書のお下がりやを渡すことも出来たので、教科書にカバーをしたりして大事に使い、落書きも出来なかった。

唱歌は、低学年では「春の小川」「茶摘」「汽車」「案山子」「田舎の四季」などがあり、高学年では「朧月夜」「故郷」

「児島高德」「海」「われは海の子」「鎌倉」等があった。

旧制中学では「ローレライ」「故郷の廃家」「埴生の宿」「荒城の月」「旅愁」などが教科として使用されていた。

級毎に「級長」「副級長」が学校長より任命され、クラス全般の世話役や、先生との取次役をしていた。

各学校には、校庭の一隅に奉安殿の設置が義務づけられ、そこには天皇陛下、皇后陛下の御真影と、教育勅語が安置され、生徒は、校門の出入時には奉安殿に礼をすることも義務づけられた。

朝礼の時は、校庭に全生徒が集合し、先生の号令で皇居に向けて礼拝したのち、体操を行った。

四大節として、四方拝（元旦）、紀元節（二月十一日）、天長節（四月二十九日）、明治節（十一月三日）には、学校で式が行なわれ、校長先生は燕尾服で御真影を講堂にうやうやしく安置し、礼拝したのち、校長先生が教育勅語を奉読され、訓話があつて後に、四大節に関する歌を合唱して式が終わり、菓子やみかんをもらつて帰る。生徒も正装しての参列である。

校庭の正面や目立つ所に二宮金次郎の石像か、銅像が置かれ、薪を背に本を読む姿があった。

しかし、昭和十六年以降、国民学校と名称が変わり、教師の中には出征する先生もおり、学業は自然おろそかになつていった。通信簿も、各教科ごとに点数制で採点され、操行などの記入もあつた。

しかし、戦後は全部廃止となり、奉安殿は撤去され、二宮金次郎像も他に移設された。

戦後の学校教育

昭和二十年八月、太平洋戦争終結となり、アメリカ進駐軍によって従来の教育方法は全面的に改廃されることとなつた。

昭和二十二年三月三十一日、教育基本法、および、学校教育法が施行された。

修身、歴史、地理の科目は廃止となり、社会の科目に包含された。

教育の目的は人格の完成を目指し、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成、学問の自由を尊重し、自発的精神の涵養、文化の創造と発展に貢献する人づくりとしている。

学業年限小学校六ヶ年、中学校三ヶ年の計九ヶ年は義務教育となり、高等学校は三ヶ年となる。

即ち、従来の高等科二ヶ年は、中学校三ヶ年となり、従来の中学校五ヶ年は、高等学校三ヶ年となつた。

通称六・三・三制である。また、男女共学の遂行である。施行当時は、中学校、高等学校、大学などは旧制と混同し易いため「新制」という名称を入れて区別していたが、現在では、すべて新制度であるので「新制」の名称は使われていない。

現在は、男女共学が基本であり、義務教育中は授業料の免除もある。

教科書については、文部大臣の検定を経た教科書で、色刷りで、どの教科書を使うかは地方自治体が決めている。

科目は、小学校では、国語、算数、理科、体育、社会、音楽、図工、家庭となり、社会の中に歴史、地理が含まれている。この他、道徳、学活の教科もあるが、成績評価の対象にはならない。

国語についての評価項目は、五項目に分類され、それぞれに評価されている。

(市立桜台小学校の例)

- 1 関心 意欲 態度
- 2 話す・聞く能力
- 3 書く能力
- 4 読む能力
- 5 知識 理解 技能

の五段階で

目標に対して十分到達

おおむね到達

努力して欲しい

◎ ○ △

その他の科目についても、三〜五項目に分類して評価の

対象となっている。

音楽などは、戦前は先生がピアノ、オルガンを弾き、生徒が歌っていたが、現在は、子供たちの中には、塾などで、音楽教室で勉強して、先生よりも上手にピアノを弾く子供もふえている。

中学校は、義務教育の期間であり、小学校を卒業後中学生となる。上記の科目に英語が入り、総合として点数で評価される。

高等学校入試に関しては「神奈川方式」という独自の選抜制度があり、中学二年の末期頃、県下一斉にア・テストが行われ、中学二、三年の成績の内申書と高校入試の成績を含めて合否判定の資料とした。

公立の全日制では、学区が決められて、地区に該当する高校を受験させられて、希望する高校が学区外であれば、受験できないシステムになっていた。

高等学校では科目が次のように分類されている

国語（現代国語、古典Ⅰ乙、古典Ⅱ）

社会（倫理社会、政治経済、世界史、日本史、地理A）

数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ）

理科（物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱ）

保健体育（体育、保健）

芸術（音楽、美術、書道）

外国語（英語、英会話）

家庭（家庭一般、被服、食物）

ホームルーム等である。この他、情報の項目をもうけている。

一年は、普通の教養項目であるが、二年、三年になると、文系、理系にわかれて、それぞれ項目がかわってくる。卒業単位は、三年間で一〇八単位以上である。

部活においても、運動部、文化部等には多くの部があり、県大会、地方大会、全国大会などに出場して、入賞、準優勝、優勝の栄冠を得ている。そのため、強化合宿練習にもはげんでいる。

公立の小、中学校は「ゆとりの教育」として必須重要教科としているが、私立の中学校や高校は、学校の特殊性か

ら、中高一貫教育などでがっちり学力を身につけている。

かつては、公立優位といわれ、俗説でも評価された学校もあるが、私立は、特色ある校風として脚光を浴び、公立は学区変更などで低迷する事態となった。

教師および児童の服装

小学校の卒業記念写真を見ると、大正から昭和の初期にかけて児童の服装は、木綿の着物を着て下駄履きで、学帽だけは校章をつけて着用していた。女生徒も同様に着物姿で、下駄履きで、髪にはリボンをつけたりして登校していた。式の際は、着物、袴姿である。

男先生は、当時においても背広姿も多く、中には詰襟の服を着ていた。女先生は、殆ど和服で、式の時には、袴を着用している。

校長先生は、この頃でも背広姿で、式の時には燕尾服を着用していた。

体操などは、男生徒は、猿股で裸足である。女生徒は、

ズロースに裸足で、先生は、白い運動用の服装で、着物の女先生は、男先生と授業を交換したりしていた。

昭和十年代には、児童の半数は学生服を着用、女生徒も同様である。男先生は、全員背広姿で、女先生も洋装が多くなっている。

男子生徒は、全員坊主頭であり、先生も一部には坊主刈りも見られ、中には髭をはやしている先生もいた。

この頃は、私立学校生徒は、学校で定めた校服を着用し、男女とも同様である。

戦後の生徒は、男女ともに洋服となった。先生も同様である。特に小学校の場合には、学生服にこだわらず、自由な服装で登校している。学帽などもなく、校章もない。先生も自由な服装で、授業を行っている。

運動などは、全員トレパン姿で、運動靴を着用している。小学校の生徒は、六年生まではランドセルであったが、中学生では、手さげ袋に教科書を入れ、高校生は、小型のリュックサックに教科書を入れている。

戦前は、学校の数も少なく、遠距離の生徒は下駄履きで、

約一里以上の道を歩いて登校していた。

現在は人口増もあり、学校が近くになって来たが、車社会といわれる程交通量も多く、小学生は特に、交通事故防止のため、ランドセルに黄色のカバーをつけて登校させるようにしている。また、横断歩道や交通のはげしい所に、交通補導員を配して、登下校の際に生徒の保護を行っている。

中学生、高校生は、公立でも制服を着用、私立では、小学校から制服で登下校している。

課外における子供の動き

戦前は、子供の遊びも単純で「戦争ごっこ」「ちゃんばらごっこ」などで、一人、年長者がいて小さい子供をひきいての遊び「凧あげ」「独楽まわし」などもあった。また、「面子（めんこ）」「竹馬」「ビー玉」も男の子の遊びであった。女の子は「お手玉」「縄とび」「毬つき」などがあり、そして、童唄をうたいながら遊んでいた。

田舎においては、農繁期には、学校も休みなので、農業の手伝いもしたり、牛馬の餌となる草刈をしたりして、家事の手伝いをした。

山谷に入り、薪拾いもして、都会の子供とは、勉強では差が出ていた。しかし、田舎の子供は、手作りの遊びものをつくるのは上手である。「鳥籠」や「竹トンボ」「わらじ」などを作ったりしている。

子供が家にいると、親は「おもてへ行って遊びな」という。

しかし、戦後から現在のにかけて、田舎も次第に都会化し、父兄たちは、子供を少しでも良い学校に入れるのを希望することから、各地に学習塾が盛んになり「英語」「数学」「国語」といった塾に通わせ、高校、大学の受験に必須科目を補講させている。

その他「書道」「珠算」「ピアノ」などの教室もあり、運動としては「野球」「サッカー」「柔道」「空手」などの教室もある。

故に、現在においては、田舎の子供も都会の子供との学

力差はなくなって来ている。

子供たちは、学校の授業を終えてから遊ぶ暇もなく、これ等塾へと通い勉強している。

最近においては、親は「おもてへ行って遊びな」とは決して言わなくなった。

車社会で、交通事故が心配されるから、子供は自然と家にいるようになり「テレビゲーム」をやったり「パソコン」など上手に利用している。

携帯電話を持っている子供も多くなった。

こうした中で、子供の遊び方も自然に変化し、戦前の遊びなど知らない子も多い。

最近においては、上級学校として専門学校、短期大学、大学（学部）が乱立し、子供も学校の選択に迷いが生じている。しかし、子供達は、受験のために予備校などにて勉強している。

戦前、戦後を通じて、学歴社会であり、現在は実力社会と言われているが、事実、学歴も多く加味された社会である。

学校内外の世相

戦前の授業は、厳しかった。授業中に私語をしたり、居眠りをしたりすると、教壇にいる先生から白いチョークがとんで来たり、鞭でたたかれたり、または、廊下に出されて立たされたりした。また、当時の父兄は、先生に対しては、一目も二目もおいていて、子供が不満を言っても「それは、お前が悪いからで、先生は一生懸命なんだから」と言って取り合わなかった。

当時の先生は聖職といわれ、生徒の性格などよく見ていた。むしろ、勉強嫌いな子や、覚えの遅い子には、補講もしていた。

最近では、学校内で、生徒間で、苛めが報道される。欠点を持った生徒や、弱い生徒に対して、数人で苛めをする。苛めを受けた子は、親にも先生にも言わないので、周囲は誰も知らない。

そして、不登校にさせたり、金品をせびったり、また、万引や窃盗をさせたり、揚句の果てには、自殺にまで追い込んだりする。

警察ざたになっても、学校側は知らなかったで通すことなど、新聞やテレビで報道される。

学校の授業においても、先生のいうことを聞かない子に対して、先生が軽く制裁すればPTAが大騒ぎとなり、却って先生が罰則を受ける立場となってしまう。

教育の立場にある先生も、女子生徒に対してセクハラ行為をして、社会問題になったりしている。生徒も、先生に対して暴力で怪我させたり、死亡させたりする事故が、報道されている。

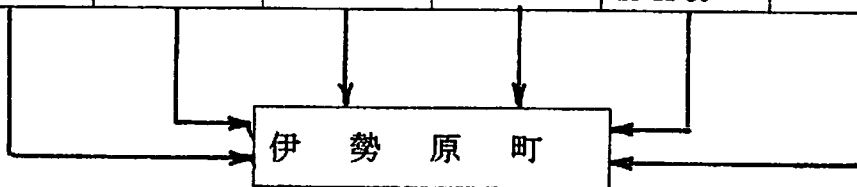
これらは、全体から見ても、少ない比率といえるかもしれないが、戦前と戦後では、生徒および先生の態様が変わってきている。戦後の教育基本法にうたっている精神とは異なり、教育の風紀が乱れているのが現状のようである。

教育委員会歴代教育長

上段 就任年月日
下段 退任年月日

昭和年代

伊勢原町	大山町	高部屋村	比々多村	成瀬村	大田村
田中俊雄	鈴木房吉	小沢 功	近藤 淳	今井滋輔	亀井幸之助
27-10-1 28-3-31	27-12-1 29-11-30	27-11-1 29-11-30	27-11-1 29-11-30	27-2- 28-3-	27-12-1 29-11-30
山田春吉				高井 章	
28-4-1 29-11-30				28-4- 29-11-30	



昭和 29 年 12 月 1 日
2 町 4 ヶ村が合併して
伊勢原町になる

小沢 功
昭和 29-12-1
昭和 37-3-13
陶山千春
昭和 37-4-1
昭和 44-9-30
山口一夫
昭和 44-10-1
昭和 55-9-30
大津浩一郎
昭和 56-10-1
平成 5-9-30
山口恒哉
平成 6-10-1
平成 13-9-30
小沼威彦
平成 13-10-1
平成 15-8-12 死去
長田尚夫
平成 16-4-1

昭和 46 年 3 月 1 日
伊勢原市になる

伊勢原市内における学校の概要

明治五年、全国統一された学制の公布によって、伊勢原市内の学校も創立、変遷、合併、廃校を繰り返しながら、伊勢原、大山、比々多、高部屋、成瀬、大田の尋常高等小学校から国民学校となり、戦後まで六校が残った。戦後六・三・三制の実施によって、高等科は中学校となり、旧制中学校は、高等学校の認可を受けて、学校教育が行われるようになった。

市内の人口増加に伴って、桜台、竹園、緑台、石田の四校が増加し、伊勢原市立の小学校は、十校を数えている。中学校も人口増加から、生徒の均衡を保つ意味から、統合されて、伊勢原市立中学校として、現在、伊勢原、山王、成瀬、中沢の四校に統合されている。

高等学校は、昭和初期に伊勢原実科女学院として開校し、戦後、高等学校に昇格した伊勢原高等学校と、戦後創立された伊志田高等学校との、県立高等学校は二校ある。

その他、私立の学校としては、創立は古く、移転、開校を繰り返しながら伊勢原の地に開校し、高等学校、中学校、

および、幼稚園を含めて向上学園が子弟の教育に当たっている。

次葉以下に各学校の推移についてその概要を記した。

- 一 伊勢原小学校の推移
- 二 大山小学校の推移
- 三 比々多小学校の推移
- 四 高部屋小学校の推移
- 五 成瀬小学校の推移
- 六 大田小学校の推移
- 七 桜台小学校の推移
- 八 竹園小学校の推移
- 九 緑台小学校の推移
- 十 石田小学校の推移
- 一 伊勢原中学校の推移
- 二 山王中学校の推移

三 成瀬中学校の推移

四 中沢中学校の推移

一 伊勢原高等学校の推移

二 伊志田高等学校の推移

三 向上高等学校の推移

学校長、教頭職の推移

明治初年以降、伊勢原市内の尋常高等小学校は、六校あり、昭和二十二年、学校教育法が施行されるまでは、校長職のみのようである。

昭和二十二年、学校教育法第二十八条において、教頭職を置くことが出来るとあるが、昭和五十三年以前の教頭の資料が見当たらず、収集した資料で表にまとめた。

県立伊勢原高等学校は、全日制、定時制があり、教頭も二人となっている。

向上高校については、教頭の資料不足があった。

明治初年より昭和二十二年までの学校長

一 伊勢原小学校 学校長

二 大山小学校 学校長

三 比々多小学校 学校長

四 高部屋小学校 学校長

五 成瀬小学校 学校長

六 大田小学校 学校長

昭和二十二年から現在までの学校長、教頭

(但し、教頭は昭和五十四年以降)

一 伊勢原市立小学校 学校長

二 伊勢原市立小学校 教頭

三 伊勢原市立中学校 学校長

四 伊勢原市立中学校 教頭

五 伊勢原高等学校 学校長、教頭

六 伊志田高等学校 学校長、教頭

七 向上高等学校 学校長、他

伊勢原小学校の推移

明治	大正	昭和	平成
五年 六年	四五年 三年 四年	一〇年 一四年 一六年 二二年	一〇年 元年 四四年 四五年 四六年
六月	四月 四月 四月 四月	七月 七月 三月 八月 四月一日 四月一日	二月 九月
<p>第一大学区第二九中学区第五三番小学区と定められる 第五三番小学を伊勢原村二六二番地 大福寺本堂を仮校舎として使用 学区 伊勢原村 白根村 板戸村 田中村 池端村 東大竹村 仮立館(伊勢原村宮脇二四七 伊勢原大神宮境内 神宮寺跡) 移転 伊勢原村他五ヶ村立小学伊勢原学校 改称 伊勢原村立尋常伊勢原小学校 改称 伊勢原町立尋常高等伊勢原小学校 改称 高等科設置 伊勢原北側一七四番地に移転 実業補習学校設置 校歌制定</p>	<p>伊勢原町田中境一一七番地に移転(現在地) 伊勢原町立伊勢原尋常高等小学校 改称 青年訓練所開設 校舎講堂の増改築 実業補習学校と青年訓練所を併合して青年学校と改称 中央校舎東側五教室の増築 昇降口の設置 伊勢原町立国民学校 改称 伊勢原町立伊勢原小学校 改称</p>	<p>高等科分離 新制伊勢原中学校となり三年教育 六・三制 青年学校 廃止 伊勢原町立伊勢原小学校 改称 東部四教室増築 三三年東部四教室増築 第一期三階建鉄筋校舎竣工 創立九十周年記念式典 第二期三階建鉄筋校舎竣工 特殊学級併設 伊勢原市立伊勢原小学校 改称 プール完成 第三期三階建鉄筋校舎竣工 屋内運動場竣工 給食棟竣工 グラウンド整備 一期、二期耐震補強工事</p>	<p>学制の発布</p>
		<p>国民学校令 教育基本法 学校教育 法 六・三制の実施 町村合併</p>	<p>市制施行</p>

大山小学校の推移

明治	大正	昭和	平成
六年	六年	七年 七年 一五年 一六年 一八年 二一年 二二年	二三年 二六年 二九年 三四年 三八年 三九年 四四年 四六年 四八年 四九年 五七年 六二年 一四年
六月	五月二二日 一〇月 一〇月	三月二六日 六月二二日 四月一日 一月二二日 四月一日 八月三十一日 四月一日	五月五日 二月二一日 二月 一月一 一月 三月一日 四月 九月
<p>大山学校創立</p> <p>この頃大山と子易村は別村であったので、それぞれ民家を借用して教場とした</p> <p>大山三八四番地の福永町旧御師平田喜大夫跡の原田宅に移転</p> <p>大山三一〇番地 新宮家跡に移転 明治一九年生徒数一五七人</p> <p>大山尋常小学校と改称</p> <p>大山慈雲山九七二番地 観音寺跡に移転 補習科を置く（五年後廃止）</p> <p>神奈川県相模国大住郡公立小学大山尋常小学校を大住郡大山町立尋常大山小学校に改称</p> <p>補習科を廃止する</p> <p>大山町立尋常高等大山小学校と改称 高等科設置、仮分教場を借入れる</p> <p>仮分教場を大山二五二番地に移転</p> <p>増築工事により仮分教場を廃止する。</p> <p>実業補習学校併置</p> <p>観音寺跡地に新校舎落成 この日を開校記念日とする</p> <p>初めて運動会を開催</p> <p>二年に一回の高等科および尋常科五、六年の修学旅行開始</p> <p>青年訓練所併設</p> <p>本年より修学旅行は毎年実施 尋常科三、四年の遠足も加え翌年は一、二年も遠足を行う</p> <p>新町上町二〇九番地 校舎増築移転（現在地）</p> <p>青年訓練所を廃止し実業補習学校を青年学校に改称</p> <p>奉安殿竣工</p> <p>大山町立国民学校 改称</p> <p>公立青年学校大山惟神実践女学校併設</p> <p>青年学校独立</p>	<p>大山町立大山小学校 高等科分離</p> <p>高等科は新制大山中学校となり一部の校舎を利用して開校</p> <p>大山中学校校舎改築</p> <p>伊勢原町立大山小学校 改称</p> <p>校地拡張 給食室新築 給食開始</p> <p>大山中学校施設を大山小学校に移管</p> <p>創立九十周年式典開催 校歌制定</p> <p>プール完成</p> <p>伊勢原市立大山小学校 改称</p> <p>三階建鉄筋校舎 完成</p> <p>新校舎の落成 創立百周年記念式典開催</p> <p>プール完成</p> <p>屋内運動場完成 給食室竣工</p> <p>校舎耐震補強工事</p>	<p>学制の発布</p> <p>国民学校令</p> <p>教育基本法 学校教育法</p> <p>六・三制の実施</p> <p>町村合併</p> <p>市制施行</p>	

比々多小学校の推移

明治	大正	昭和	平成
四年	三年 二年 一年	八年 七年 六年 五年 四年 三年 二年 一年	一六年 一五年 一四年 一三年 一二年 一一年 一〇年 九年 八年 七年 六年 五年 四年 三年 二年 一年
四年	四月二日 三月 四月二日	七月二〇日 四月一日 九月一日 四月一日 四月一日	五月五日 一二月一日 一〇年二六日 三月一日 三月 三月 九月 一二月 三月
<p>寺子屋弘文舎(西富岡村)慶応元年より 清泉堂塾(北金目)文久三年開塾 白根村は第一学区第二九中学区第五三番小学 伊勢原村大福寺にて開校 後、伊勢原大神宮境内 仮立館にて開校通学する 坪之内学校 第一学区第二九中学区第四九小学 坪之内福昌院 満六歳から一四歳まで学齡とした また、上等小学、下等小学を八段階に別けて八級より始め、年二回の試験により上級へ進学できる 学区 神戸村、串橋村、笠久保村、坪之内村、善波村、三之宮村 神戸学校 移転(神戸六一七番地) 尋常小学校四年(義務)、高等小学四年となる 町村制施行により白根村は比々多村に編入 しかし学区はそのまま 白根村 比々多学区に編入 神戸学校校舎全焼 比々多村五三〇番地に校舎新築 比々多村立尋常高等比々多小学校 改称 高等科設置 暴風雨のため校舎被害大となる 校舎増築 比々多実業補習学校併設 尋常小学六年(義務教育)、高等小学二年とする 校舎増築 比々多小学校校章制定 比々多小学校校歌制定 校舎増築 比々多尋常高等小学校 改称 関東大震災のため校舎全壊 翌年六月一〇日校舎改築 校舎、講堂新築 校舎増築 二五〇坪 作法裁縫室、理科室、準備室、手工室 比々多読本発行 紀元二六〇〇年奉祝旗行列 二宮尊徳像除幕 比々多青年学校発足 比々多国民学校 改称 初等科六年、高等科二年 比々多村立比々多小学校 改称</p>	<p>高等科は新制中学となり比々多中学校開校 小学校地三〇二五坪 校舎敷地八五二坪……文部省報告 伊勢原町立比々多小学校 改称 教科書全学年無償となる 学区変更 木津根は桜台小学区 板戸、里沙門は比々多小学区になる 伊勢原市立比々多小学校 改称 第一期鉄筋三階建校舎竣工 比々多小学校開校一〇〇年祭施行 プール完成 第二期鉄筋三階建校舎竣工、屋内運動場竣工 グラウンド整備 校舎耐震補強工事 第一期校舎トイレ改造工事 校舎増築竣工</p>	<p>国民学校令 教育基本法、学校教育法 六・三制の実施 伊勢原町制施行 伊勢原市制施行</p>	<p>学制の発布</p>

高部屋小学校の推移

明治	大正	昭和	平成
六年	四〇年 一二年 一二年	二年 一六年 二二年	二七年 二九年 二九年 三五年 三五年 三六年 三八年 四四年 四四年 四八年 四八年 五三年 五三年 五六年 五八年 九年
六月 一〇月一五日	四月一日 九月一日 五月一九日	一月三日 四月一日 四月一日	四月一九日 五月一九日 一月一日 二月一日 九月三〇日 一月一日 五月九日 四月一六日 三月一日 一月二八日 七月一五日 四月
日向学校創立 小学仮立館第四支校（日向鑑山寺に開校） 富岡学校創立 小学仮立館第三支校（東富岡龍散寺に開校） 上粕屋学校創立 小学仮立館支校（石倉 山口氏宅に開校） 日向学校 第一大学区第二九中学区第六九番小学と改称 富岡学校 第一大学区第二九中学区第六七番小学と改称 上粕屋学校 第一大学区第二九中学区第五三番小学と改称 日向学校と富岡学校合併 第一大学区第二九中学区第六八番小学富岡学校となる 通学区域は日向村、西富岡村、東富岡村の三ヶ村 西富岡村の宝蔵寺を校舎とする 公立富岡学校と改称する 村立小学校富岡学校と改称 村立小学上粕屋学校と改称 新築校舎落成（台） 富岡学校校舎焼失 東富岡村を分離し西富岡村と日向村を通学区域に変更 西富岡村福蔵寺を校舎として翌年六月六日より開校 村立富岡学校 新築校舎落成（北夷詩原） 中郡高部屋村立尋常東小学校と改称（旧富岡学校） 中郡高部屋村立尋常西小学校と改称（旧上粕屋学校） 尋常東小学校と尋常西小学校合併 中郡高部屋村立尋常高等高部屋小学校と改称 道替戸一〇九〇番地に校舎新設（現在地 西富岡一〇九〇） 開校 高等科併設 尋常科六学級 高等科二学級とする 開校記念日とする 実業補習学校併設 高部屋尋常高等小学校と改称 関東大震災により全校舎半壊 九月一六日まで臨時休校 一七日より二部授業 一〇月二九日より普通授業に復帰 翌年九月復旧工事完了 校舎本館、南館、講堂、奉安殿落成 村立高部屋国民学校と改称 初等科六年、高等科二年とする 村立高部屋小学校と改称 従来の高等科は新制中学となり高部屋中学校創立 校舎がないので小学校の校舎一部を使用して五月五日開校する 創立五〇周年記念式典 校歌制定 伊勢原町立高部屋小学校 改称 給食室竣工（給食室、事務室、給食室廊下 計三〇、四坪） 一円玉募金にてテレビ購入（二二吋） 創立六〇周年記念式典 第一期新校舎落成（鉄筋三階建一五教室） 伊勢原市立高部屋小学校と改称 創立七〇周年記念式典 学校プール工事完成 第二期新校舎落成（鉄筋三階建） 屋内運動場竣工 愛鳥教育全国実績発表会 文部大臣賞受賞 肢体不自由学級新設	学制の発布 国民学校令 教育基本法 学校 教育法 六・三制の実施 伊勢原町制施行 市制施行		

成瀬小学校の推移

明治	大正	昭和	平成
六年 四月	一二年 四月一日 一二年 九月一日	二年 五月五日 二年 一月一日 三年 四月一日 七年 四月一日	四八年 三月一日 五五年 九月 五九年 二月 元年 三月 九年 九月 一六年 一月
<p>第一大学区第三九中学区第五八番小学 上谷村池田神社にて開校 学区 東富岡村、栗窪村、高森村、石田村、見附島村、下落合村 第五八番小学本校(下谷村 嶋昌寺) 第一支校 改称 第一支校 下落合村天王院に移転開校 学区 上落合村、下落合村、石田村、見附島村 第二支校 石田村東光寺に移転 第二支校 東富岡村龍散寺にて開校 学区 東富岡村、栗窪村、高森村 仮立館第三支校 下糟屋村高部屋神社にて開校 学区 下糟屋村、栗窪村の一部 第一支校と第二支校が合併 第五九番小学思誠館と改称 高森長龍寺に移転 思誠館 ↓ 高森学校 改称 仮立館第三支校 ↓ 下糟屋学校 改称 高森学校と下糟屋学校が合併 公立小学鳳鳴学校 改称 高森村白金にて開校 校舎焼失 寿経寺、長龍寺、松高庵、大慈寺にて授業開始 校舎移転 高森一四八―一三 高等科設置 成瀬村立母常高等成瀬小学校 改称(旧鳳鳴学校) 教育勅語贈本下賜 二八年御真影下賜される 実業補習学校併設 成瀬村立成瀬尋常高等小学校 改称 関東大震災により校舎倒壊 一七日まで休校 二四日まで屋外授業 二五日より村内神社、寺院にて二部授業 一〇月一七日より復旧工事完了で本校で授業 二階建校舎新築 奉安殿設置 理科学習で兎の飼育を始める 村立成瀬国民学校 改称 成瀬村立成瀬小学校 改称 高等科分離</p>	<p>新制成瀬村立成瀬中学校となる 伊勢原町立成瀬小学校 改称 成瀬小学校隣接地より現在地に移転 創立九〇周年記念式典 伊勢原市立成瀬小学校 改称 第一期三階建鉄筋校舎竣工 第二期三階建鉄筋校舎竣工 プール完成 第三期三階建鉄筋校舎竣工 屋内運動場竣工 グランド整備 創意工夫育成功労学校として科学技術庁長官賞受賞 給食室竣工 分離校舎建設工事開始 一期校舎耐震補強工事 二期校舎耐震補強工事</p>	<p>国民学校令 教育基本法 学校 教育法 六・三制 町村合併 市制施行</p>	<p>学制の発布</p>

桜台小学校の推移

昭和	平成
四一年	四三年 四四年 四四年 四五年 四五年 四六年
四月一日	四月一日 一二月 一月 一月二一日 三月一日
<p>校地として東大竹村(伊勢原村の飛地)の成願寺跡地(土地売買契約成立)</p> <p>「新編相模国風土記稿」によれば、此寺入野村(現平塚市)に移し、その後陸田を開き字成願寺という年代詳かならず天台宗</p> <p>学区変更 木津根……桜台小学校 毘沙門(板戸)……比々多小学校</p> <p>伊勢原小学校より分離独立して開校 併設</p> <p>第一期四階建鉄筋校舎 竣工</p> <p>新校舎落成</p> <p>伊勢原町立桜台小学校 開校 開校記念日とする</p> <p>屋内運動場竣工</p> <p>伊勢原市立桜台小学校 改称</p> <p>校地拡張</p> <p>第二期三階建鉄筋校舎竣工</p> <p>プール工事完成</p> <p>神奈川県学校保健優良校として県教育委員会より表彰される</p> <p>屋内運動場を改築竣工</p> <p>第一期校舎耐震補強工事</p>	<p>伊勢原市制施行</p>

竹園小学校の推移

昭和	五一年		桜台第二小学校（仮称）用地取得 建築工事 四階建鉄筋校舎 竣工 屋内運動場竣工
	五三年	四月一日	桜台小学校より分離開校
	五四年	三月七日	伊勢原市立竹園小学校 開校記念日とする
	五七年		プール工事完成
平成	一五年	四月	校章、校歌制定 県下学校席書大会で優秀校として受賞 弱視障害学級新設

緑台小学校の推移

昭和	五三年		<p>成瀬小学校より分離し開校 学区 北高森、高森台、石田地区とする 建築工事 四階建鉄筋校舎竣工 屋内運動場竣工 伊勢原市立緑台小学校 開校 開校記念日とする プール工事完成 ソニー教育振興財団より、理科ふれあい教育で優秀校を受賞</p>	
	五三年 五四年 六一年	四月一日		

石田小学校の推移

平成
一二年
四月一日
校舎竣工 伊勢原市立石田小学校 開校 開校記念日とする

伊勢原中学校の推移

昭和	平成		
二二年		四月一日	伊勢原町立伊勢原中学校 創立
二二年		五月五日	伊勢原小学校の一部を仮校舎として開校式 中学校設立に關する町民大会を開く
二三年		三月	大住中学校(岡崎、城島、豊田各村)後に豊田村は大野中学校に併合 伊勢原中学校
二三年		四月一日	大田中学校
二五年		三月二五日	組合立伊勢原中学校 改称 大住中学校に分校をおいて授業開始 (二町三ヶ村……伊勢原町、大田村、岡崎村、城島村) 各小学校に分校をおいて授業開始
二六年		五月	第一期工事 木造二階建第一号館、第二号館落成……伊勢原二〇番地 一部を生徒を伊勢原小学校にのこし大部分を収容 一〇月校章制定 大田、岡崎、城島の分校を廃止
二七年		四月一日	第二期工事 木造二階建第一号館の増築、第三号館落成 全校生徒を収容
二九年		九月九日	第三期工事 一号館に接続して増築落成 校旗制定 九月校歌制定(藤島宇内作詞、団伊玖磨作曲) 体育館落成 ビアノ購入
三〇年		四月一日	伊勢原町外二ヶ村中学校組合立伊勢原中学校 改称
三一年		九月一日	伊勢原町平塚市教育組合立伊勢原中学校 改称 岡崎村大句、馬渡……伊勢原町 岡崎村、城島村……平塚市
三三年		十一月一日	第四号館特別教室 木造平屋落成 洗濯染色室、調理室、作法室、家庭科室、理科準備室
三三年		十一月三日	第二回全日本学生科学賞学校賞第一位受賞
三五年		一〇月六日	第一〇回全日本学校新聞コンクールで全国一位 文部大臣賞受賞 プール完成(二五米、一四米、一・二米) 第一回神奈川県剣道大会優勝
三七年		八月	青少年創意工夫の育成功勞学校として科学技術長官賞受賞
三八年		四月	第一号館、第二号館、第三号館の外部塗装完了
四〇年		八月	県、国連作文コンクール 優秀賞受賞
四五年		一〇月	第五号館、プレハブ三教室完成 校舎内装工事完了
四六年		八月	第六号館、プレハブ三教室完成 各教室へテレビ設置完了
四七年		十一月	第七号館、プレハブ三教室完成
四八年		五月	第一期四階建鉄筋校舎竣工 一〇月、新校舎にテレビ設置
五一年		八月	校域拡張、借地用地取得
五七年		三月	一〇月、平塚市借地用地取得 五八年二月、国有地用地取得
五八年		三月	第二期四階建鉄筋校舎竣工
五九年		二月	屋内運動場竣工
五九年		七月	新プール竣工
六一年		三月	西側擁壁築造
七年		一二月	県、人権作文コンクール 優秀賞、銀賞受賞
七年		一二月	全国明るい選挙ボスターコンクール 自治文部大臣賞受賞
九年		十一月	創立五〇周年記念式典挙行
二二年		四月	情緒障害学級新設

教育基本法 学校
教育法

町村合併
町村合併

附記 昭和四六年三月一日 伊勢原市平塚市教育組合立伊勢原中学校(伊勢原市制施行)
昭和五〇年四月一日 伊勢原市立伊勢原中学校 (平塚市立大住中学校創設)

中沢中学校の推移

昭和	
五六年	五七年
五六年	五七年
二月	三月
八月	四月一日
校舎用地取得 プール完成 四階建鉄筋校舎竣工 屋内運動場竣工 伊勢原市中沢中学校 開校	伊勢原中学校より分離開校 伊勢原小学校、大田小学校の一部、成瀬小学校の一部、桜台小学校の一部を通学区域とする 屋外運動場照明設備完成 神奈川県より健康優良校として受賞
六〇年	六三年
九月	

伊勢原高等学校（県立）の推移

（県立伊勢原高等学校創立六十五周年同窓会名簿）

昭和	昭和	昭和	昭和
三年	五月二一日	私立伊勢原実家女学院として伊勢原町大福寺にて開校	
四年	四月二三日	伊勢原町に移管 伊勢原高等学校として認可	
五年	一月八日	伊勢原尋常高等小学校校舎の一部へ移転	
五年	五月二〇日	伊勢原町田中一〇〇八番地に校舎新築移転（現在地）開校記念日とする	
九年	一月二一日	校舎増築落成	
十二年	一月二一日	伊勢原町、大山町、高部屋村、比々多村、成瀬村、大田村、岡崎村の学校組合に移管	
一六年		二月二一日、校舎増築落成 四月一日、学級増認可 八学級 定員四〇〇名	
一八年	九月二一日	中郡相川村 学級組合へ加入	
一九年	三月三〇日	中郡城島村 学級組合へ加入	
二〇年	四月二一日	学級増認可 一二学級 定員六〇〇名	
二三年	四月二一日	神奈川県伊勢原高等学校 改称 夜間定時制併置	
二四年	一月二一日	県に移管 神奈川県立伊勢原高等学校 改称	
二五年	四月二一日	定時制の課程（昼間女子）併置	
二五年	五月二七日	講堂新築落成 創立二〇周年記念式典挙行	
二六年	三月六日	運動場拡張工事完成	
二七年		二月二〇日、校歌制定 一二月、特別教室増築	
二九年	四月二一日	定時制の課程（昼間女子）廃止 別科、家庭科を併置	
二九年	一月二二六日	創立二五周年記念式および図書館落成記念祝賀式を挙行	
三一年	二月二一日	校地拡張（一六七五平方米）	
三三年	四月二一日	全日制の課程 定員五〇名増 別科一年の募集停止	
三三年	五月二一日	全日制の課程 定員四〇〇名となる 別科二年を普通科二年に編入	
三三年	九月四日	校地拡張（二七二平方米）	
三七年	一月三〇日	一〇月二七日、創立三〇周年記念式典挙行	
三八年	五月二四日	本館 鉄筋コンクリート造三階建校舎落成	
三九年	二月二八日	運動場用地（二〇、八三五平方米）買収完了	
四〇年	四月二三日	体育館兼講堂 新築落成	
四一年	九月九日	運動場拡張工事完成（一一、三六二平方米）	
四二年	一月一三日	伊勢原町田中一〇〇八一の土地（二九八・三四平方米）買収完了	
四三年	一月二一日	プールおよび付属建物 新築落成	
四四年	三月三一日	創立四〇周年記念式典挙行	
四四年	七月二五日	伊勢原町アツマ（校舎東側）土地（二、七二二平方米）買収完了	
四五年	四月二一日	鉄筋コンクリート造三階建（管理棟）落成	
四六年	二月一〇日	鉄筋コンクリート造四階建（一部五階建）校舎落成	
四七年	四月二一日	男子ニクラス入学 男女共学となる 一学年六学級となる	
四八年	三月二一日	校歌の碑校庭に設立	
四八年	四月二一日	全日制の課程 一学年八学級となる	
四九年	五月二〇日	柔剣道場（鉄筋造二階建）落成	
五三年	一月二二日	八月二四日、部室（鉄筋造二階建）落成	
六三年	四月二一日	創立五〇周年記念式典挙行	
六三年	五月二四日	全日制の課程 一学年九学級となる	
四年	九月	創立六〇周年記念式典挙行 伊勢原市市民文化会館にて	
一一年	一月二七日	同窓会名簿発刊 創立七〇周年記念式典挙行	

六・三・三制
学制改革
神奈川県に移管

向上高等学校の推移

(平成七年「向上花一輪」より)

明治	大正	昭和	平成
四〇年 四月 四三年 七月六日 四三年 七月二二日 四四年 三月 四四年 四月五日 九年 三月二四日 一二年 九月一日 一四年 五月一日 元年 七月六日 二年 三月二五日 一〇年 一一月二二日 一一年 三月二六日 一五年 四月四日 一五年 四月末日 一六年 二月二二日 一六年 五月二九日 一七年 三月二三日 二〇年 三月二六日 二二年 四月一日 二三年 三月二〇日 二六年 二月二六日 二六年 三月一日 四〇年 一〇月九日 四〇年 一一月 四一年 六月二日 四一年 一〇月一三日 四一年 一一月 四二年 一一月二八日 四二年 三月一日 四二年 四月七日 四二年 一一月一八日 四三年 四月五日 四三年 一一月一日 四四年 一一月三日 四四年 三月三日 四六年 一一月八日 四七年 一〇月一八日 四八年 一〇月八日 四八年 七月五日 四八年 八月二二日 四九年 一〇月二七日 元年 一〇月一日 二年 一〇月二四日 四年 五月二六日 五年 一〇月一七日	四〇年 四月 四三年 七月六日 四三年 七月二二日 四四年 三月 四四年 四月五日 九年 三月二四日 一二年 九月一日 一四年 五月一日 元年 七月六日 二年 三月二五日 一〇年 一一月二二日 一一年 三月二六日 一五年 四月四日 一五年 四月末日 一六年 二月二二日 一六年 五月二九日 一七年 三月二三日 二〇年 三月二六日 二二年 四月一日 二三年 三月二〇日 二六年 二月二六日 二六年 三月一日 四〇年 一〇月九日 四〇年 一一月 四一年 六月二日 四一年 一〇月一三日 四一年 一一月 四二年 一一月二八日 四二年 三月一日 四二年 四月七日 四二年 一一月一八日 四三年 四月五日 四三年 一一月一日 四四年 一一月三日 四四年 三月三日 四六年 一一月八日 四七年 一〇月一八日 四八年 一〇月八日 四八年 七月五日 四八年 八月二二日 四九年 一〇月二七日 元年 一〇月一日 二年 一〇月二四日 四年 五月二六日 五年 一〇月一七日	小学校六年教育修了者に対し、適切な教育を施し、有能な人材育成のため、自修学会を組織し瑞雲寺庫裡にて授業を行う 自修学校と改称 自修学校開校 第一回卒業式(二年修了一〇名 一年修了一七名) 瑞雲寺境内に新校舎建設(平屋六坪 三教室、事務所) 竣工式挙行(足柄上郡跡には二月一日とある) 第一〇回卒業式(二年修了五五名 一年修了二七名) 関東大震災により校舎倒壊 一一月二八日同境内に校舎改築 制服が和服から洋服に変更(白ゲートル着用) 瑞雲寺東方に校地借用 新校舎建築と共に旧校舎移転改築 (新築二教室、事務室、職員室 移築三教室) 第一七回卒業式(二年修了一三一名 一年修了五四名) 卒業記念として校旗寄贈 瑞雲寺復旧 神奈川県告示第七一四号を以って左記認定を得る 兵役法施行令により学校の課程を青年学校と同等以上の認可 第二六回卒業式(二年修了一一八名 一年修了四九名) 教科員修身、公民、国語、漢文、英語、数学、商業、作文、書方、教 科	私立学校令 六・三・三制移行
現有施設概要(平成七年「向上花一輪」より) 校舎 四六、五二八G(一三、四〇〇坪) 運動場 五、三二二G(鉄筋コンクリート六階建) 延床面積一八、二二二G(五、五〇〇坪) 体育館 三階建(二階、レスリング、柔道、浴室) 二階 倉庫 三階 卓球、放送室) 管理棟 二階建(二階 事務室、会議室、応接室 二階 職員室、医務室、生徒指導室、他) 学習棟 普通教室 三〇教室 特別教室 二〇教室 六階建鉄筋コンクリート 各教科に対応の教室 プール 二五米六列			

伊勢原小学校 学校長

氏名	就任	退任	備考
辰野明直	明治 6 年 5 月	明治 15 年	
和田周蔵	明治 16 年 2 月	明治 18 年 5 月	小学校 6 等副導
岡野健蔵	明治 18 年 5 月	明治 19 年 6 月 28 日	小学校 4 等副導
辰野明直	明治 19 年 6 月	明治 24 年 9 月	小学校 6 等副導
葛貫近重郎	明治 24 年 9 月	明治 44 年 3 月 31 日	小学校 6 等副導
久保寺高造	明治 44 年 3 月 31 日	大正 8 年 3 月 26 日	副導 校長
露木将郎	大正 8 年 3 月 26 日	大正 9 年 3 月 31 日	副導 校長
富田清五郎	大正 9 年 3 月 31 日	大正 11 年 8 月 14 日	副導 校長
露木将郎	大正 11 年 9 月 11 日	昭和 6 年 3 月 31 日	副導 校長
横溝今次郎	昭和 6 年 3 月 31 日	昭和 16 年 12 月 23 日	副導 校長
上村重昌	昭和 16 年 12 月 23 日	昭和 19 年 5 月 31 日	
沼野嘉彦	昭和 19 年 5 月 31 日	昭和 23 年 3 月 18 日	

大山小学校 学校長

氏名	就任	退任	備考
下山真澄	明治 5 年	明治 28 年	
武 静江	明治 28 年	大正 9 年	
森屋高蔵	大正 9 年	大正 13 年	
古宮精一郎	大正 13 年	大正 14 年	
高橋半七	大正 14 年	大正 15 年	
黒石修一郎	大正 15 年	昭和 5 年	
守屋良平	昭和 5 年	昭和 8 年	
野呂敏郎	昭和 8 年	昭和 11 年	
込山勝治	昭和 11 年	昭和 13 年	
松下重治	昭和 13 年	昭和 17 年	
脇 隆治	昭和 17 年	昭和 19 年	
望月又三	昭和 19 年	昭和 20 年	
白鳥 宏	昭和 20 年	昭和 21 年 6 月	
田中新平	昭和 21 年 7 月	昭和 24 年 3 月	

比々多小学校 学校長

氏名	就任	退任	備考
保田消節	明治6年4月1日		
石井吉右衛門	明治10年		
保田 恒	明治14年		?
和田儀太郎	明治20年4月	明治25年6月	
林 定治	明治26年4月10日	明治29年9月20日	
片岡喜又	明治29年9月21日	明治31年12月11日	
田尾信良	明治32年2月25日	明治40年6月24日	
今井正蔵	明治40年7月	大正7年4月30日	
本庄良作	大正7年5月29日	大正10年12月	
草山忠八	大正11年	大正13年3月31日	
渡辺福松	大正13年3月31日	大正15年3月31日	
横溝今次郎	大正15年4月30日	大正15年8月11日	
森屋高蔵	大正15年8月25日	昭和2年3月12日	
重田政三	昭和2年3月31日	昭和8年	
守屋良平	昭和8年4月12日	昭和12年3月31日	
上村重昌	昭和12年	昭和16年	
野村 巖	昭和16年12月23日	昭和19年	
高橋芳平	昭和19年	昭和21年	
岡田稲雄	昭和21年	昭和22年	
宮川利三郎	昭和22年4月30日	昭和32年10月31日	

高部屋小学校 学校長

氏名	就任	退任	備考
守屋闔三郎	明治26年6月5日	明治33年5月	
三浦英蔵	明治33年7月13日	明治34年4月	
近藤義雄	明治34年4月25日	明治35年3月	
三浦英蔵	明治35年3月31日	大正11年4月	
田中歌吉	大正11年4月23日	大正14年3月31日	
川口 清	大正14年3月31日	昭和6年3月31日	
草柳良造	昭和6年3月31日	昭和10年8月15日	
沼野嘉彦	昭和10年8月15日	昭和16年5月6日	
葛貫静蔵	昭和16年5月6日	昭和19年4月30日	
小長井信吉	昭和19年4月30日	昭和20年3月31日	
青木幸行	昭和20年3月31日	昭和22年4月30日	
青木 茂	昭和22年4月30日	昭和23年3月31日	

成瀬小学校 学校長

氏名	就任	退任	備考
平賀喜代松	明治 12 年		
能條保五郎	明治 15 年		
後藤宗七	明治 19 年		
竹窪儀三郎	明治 29 年		
堀越梅之助	明治 31 年		
斉藤誠一	明治 34 年		
柳下宗次	明治 39 年		
川崎久治	明治 41 年		
田中音吉	大正 9 年		
井上芳之助	大正 13 年		
黒石修一郎	昭和 5 年		
葛貫静蔵	昭和 9 年		
関野宗平	昭和 12 年		
飯塚鐵三郎	昭和 16 年		
菅 実	昭和 18 年		
白鳥 宏	昭和 21 年		
小柴俊也	昭和 22 年		

大田小学校 学校長

氏名	就任	退任	備考
鈴野幸次郎	明治 25 年 11 月 1 日	明治 28 年 11 月 28 日	
飯田道左	明治 28 年 11 月 28 日	明治 30 年 4 月 23 日	
大谷三千三	明治 30 年 4 月 23 日	明治 34 年 11 月 28 日	
佐野千代吉	明治 35 年 1 月 6 日	明治 37 年 4 月 9 日	
重田正太郎	明治 37 年 4 月 9 日	大正 4 年 11 月 27 日	
井上芳之助	大正 4 年 12 月 21 日	大正 13 年 7 月 31 日	
森屋高蔵	大正 13 年 7 月 31 日	大正 15 年 8 月 25 日	
高橋憲吉	大正 15 年 8 月 25 日	昭和 4 年 3 月 31 日	
関野弥八	昭和 4 年 3 月 31 日	昭和 13 年 3 月 31 日	
石井鉦蔵	昭和 13 年 3 月 31 日	昭和 20 年 3 月 31 日	
原 清次	昭和 20 年 3 月 31 日	昭和 21 年 5 月 31 日	
沢野俊郎	昭和 21 年 5 月 31 日	昭和 22 年 4 月 30 日	
関野健一	昭和 22 年 4 月 30 日	昭和 24 年 4 月 15 日	



伊勢原市立小学校 学校長

年号	伊勢原小学校	大山小学校	高部屋小学校	比々多小学校	成瀬小学校	大田小学校	桜台小学校	緑台小学校	竹園小学校	石田小学校
昭和22	沼野嘉彦	田中真平	宵木茂	官川利三郎	小柴俊也	関野健一	-	-	-	-
23	大矢初治	"	亀井幸之助	"	"	"	-	-	-	-
24	小柴俊也	井上 碩	田中真平	"	秋山俊男	栗田与助	-	-	-	-
25	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
26	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
27	"	"	宵木輝房	"	"	"	-	-	-	-
28	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
29	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
30	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
31	関宮和正	"	"	"	"	"	-	-	-	-
32	"	守屋 亮	秋山俊男	栗田与助	井上 碩	大木利夫	-	-	-	-
33	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
34	伏見睦家	"	"	"	"	"	-	-	-	-
35	渡辺 博	"	"	"	"	"	-	-	-	-
36	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
37	"	村井敏行	"	"	"	"	-	-	-	-
38	"	武 忠正	栗田与助	大木利夫	"	村井敏行	-	-	-	-
39	"	"	"	"	山田 登	"	-	-	-	-
40	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
41	"	"	"	"	"	"	-	-	-	-
42	"	大賀茂治	"	村井敏行	"	武 忠正	-	-	-	-
43	"	"	"	"	森屋勇蔵	"	-	-	-	-
44	栗田与助	能條斐雄	大賀茂治	"	"	小泉謙三	武 忠正	-	-	-
45	"	"	"	綾部鏡司	"	"	"	-	-	-
46	"	"	"	"	"	村上忠明	市川忠雄	-	-	-
47	加藤一雄	吉田喜春	"	大津浩一郎	"	能條斐雄	"	-	-	-
48	"	"	能條斐雄	"	"	小川弁蔵	"	-	-	-
49	"	"	"	"	"	"	"	-	-	-
50	"	佐藤 隆	"	鈴木 幸	大村利夫	"	山口大輔	-	-	-
51	綾部鏡司	"	"	"	"	小泉賢三	"	-	-	-
52	"	山田武夫	佐藤 隆	"	"	"	"	-	-	-
53	"	"	"	井出一良	"	"	柳田市郎	鈴木 隆	草柳順一	-
54	"	"	"	"	"	"	"	"	"	-
55	大村利夫	"	茂田亮司	"	小泉賢三	"	"	"	"	-
56	"	"	"	"	"	小沢 幹	"	"	"	-
57	"	飯塚恒夫	"	牧口矩伯	"	"	"	"	三橋 修	-
58	小泉賢三	"	"	"	大津慶治	"	鈴木万吉	工藤一男	"	-
59	"	滝沢義隆	飯塚恒夫	"	"	高橋左七	"	"	"	-
60	"	"	"	"	"	"	"	"	"	-
61	"	"	"	"	"	"	"	"	"	-
62	竹内伊左男	久保篤範	"	"	"	"	山口恒哉	"	"	-
63	"	"	"	梶谷英一	和田武男	"	"	山田祐三	"	-
平成元	"	石井山治	久保篤範	"	"	三好長生	"	"	梶山清一	-
2	"	小原忠郎	"	石井山治	"	"	梶谷英一	大谷建二	"	-
3	"	"	岡広隆治	"	"	"	"	"	"	-
4	小原忠郎	植木正美	高橋 章	"	岡広隆治	大谷建二	"	和田敦子	"	-
5	大谷建二	渡辺 馨	"	"	"	植木正美	池田 征	"	牧 喬	-
6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	-
7	"	古谷 智	渡辺 馨	和田 央	池田 征	"	岡広隆治	高橋 章	"	-
8	"	"	"	"	"	"	"	"	"	-
9	植木正美	平井和夫	小林功治	"	"	石井惇雄	"	古谷 智	"	-
10	"	"	"	相原 彰	"	"	霜島祥子	"	"	-
11	古谷 智	椎野賢一	"	"	平井和夫	"	"	根本留雄	高橋重信	牧 喬
12	"	"	"	石井惇雄	"	細野 博	"	"	"	"
13	"	米山哲夫	"	"	"	"	"	"	椎野賢一	"
14	根本留雄	"	原 康	"	本居朝代	金子 徹	小林功治	高橋憲秋	"	"
15	"	"	"	"	渡辺正美	"	"	"	"	高橋重信
16	"	畠中治知	"	米山哲夫	"	細野育夫	"	"	"	"
17	"	"	"	"	椎野賢一	"	高橋憲秋	本居朝代	梅林明夫	"

伊勢原市立小学校 教頭

年号	伊勢原 小学校	大 山 小学校	高 部 屋 小学校	比々多 小学校	成 瀬 小学校	大 田 小学校	桜 台 小学校	緑 台 小学校	竹 園 小学校	石 田 小学校
昭和52										
53										
54	牧野矩伯	滝口鶴隆	鈴木万吉	矢野直吉	鈴木英代	原島重則	諸星昭平	高橋佐七	竹内伊左男	—
55	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—
56	〃	吉田晴宜	〃	滝沢義隆	〃	〃	工藤一男	〃	〃	—
57	和田武男	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—
58	〃	〃	内藤久徳	〃	竹内伊左男	梶山清一	山口恒哉	梶谷英一	高橋左七	—
59	〃	三好長生	〃	梶谷英一	〃	〃	吉田晴宜	前田福松	石井山治	—
60	〃	石井山治	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三好長生	—
61	梶山清一	〃	山田祐三	〃	〃	内藤久徳	和田武男	〃	〃	—
62	〃	〃	〃	〃	前田福松	〃	〃	大谷達二	〃	—
63	〃	〃	岡広隆治	三好長生	〃	〃	亀井寛之	〃	和田敦子	—
平成元	森屋 誠	植木正美	〃	石射ノブ子	〃	〃	〃	〃	〃	—
2	〃	〃	〃	〃	〃	高橋 章	〃	中丸 昭	〃	—
3	〃	〃	亀井寛之	〃	池田 征	〃	和田敦子	〃	前田福松	—
4	〃	足立陽子	〃	古谷 智	〃	沼田崎子	牧 喬	〃	〃	—
5	〃	〃	小林功治	〃	石井輝雄	〃	長井淑子	〃	〃	—
6	沼田崎子	〃	〃	〃	〃	高橋重信	〃	〃	平井和夫	—
7	〃	〃	〃	内藤宏子	〃	岸本 尊	〃	霜島祥子	〃	—
8	岸本 尊	林 スミ子	〃	〃	〃	榎本智雄	〃	〃	〃	—
9	〃	〃	椎野賢一	〃	本居朝代	〃	山口 清	〃	星野直治	—
10	〃	〃	〃	〃	〃	山崎 正	〃	榎本智雄	〃	—
11	〃	〃	原 康	毛利澄夫	米山哲夫	加納房江	細野育夫	高橋憲秋	〃	本居春代
12	星野直治	金子 徹	〃	〃	〃	〃	〃	林 スミ子	梅林明央	高橋憲秋
13	〃	〃	〃	〃	竹内幹夫	〃	〃	〃	〃	〃
14	〃	吉沢俊一	添田栄一	梅林明央	〃	〃	〃	〃	佐伯正一	畠中治知
15	加納房江	〃	〃	星野直治	〃	細野育夫	石黒利昌	〃	〃	〃
16	〃	〃	竹内幹夫	〃	細谷敏雄	馬島陸英	川島龍彦	安倍正弘	〃	斉藤恵司
17	〃	谷山敬子	〃	斉藤恵司	〃	〃	〃	〃	吉沢俊一	渡辺静夫

伊勢原市立中学校 学校長

年 号	伊 勢 原 中 学 校	成 瀬 中 学 校	大 山 中 学 校	高 部 屋 中 学 校	比 々 多 中 学 校	山 王 中 学 校	大 田 中 学 校	中 沢 中 学 校		
昭和 22	陶山千春	白鳥 宏	田中真平	青木幸行	岡田稲雄	—	亀井幸之助	—		
23	〃	齊藤其代	〃	岡田稲雄	府川憲三	—	腐 校 伊勢原中学 校に統合	—		
24	〃	〃	小泉正夫	〃	〃	—		—		
25	〃	〃	〃	浜田嘉儀	〃	—		—		
26	〃	長田秋三	〃	〃	〃	—		—		
27	〃	〃	佐藤貞二	〃	〃	—		—		
28	〃	〃	〃	〃	〃	—		—		
29	〃	〃	渡辺 博	〃	〃	—	—			
30	〃	〃	〃	〃	〃	—	—			
31	〃	渡辺 博	高橋寛司	府川憲三	長田秋三	—	—			
32	〃	〃	〃	〃	〃	—	—			
33	〃	〃	〃	〃	〃	—	—			
34	〃	〃	〃	〃	〃	—	—			
35	〃	高橋寛司	石井正雄	〃	吉川好夫	—	—			
36	安藤利男	〃	〃	〃	〃	—	教 頭	—		
37	〃	杉山敏英	腐 校 (37-31) 山王中学校に統合			守屋亮	和田敏郎	—		
38	〃	〃				〃	〃	〃	小泉薫三	—
39	〃	〃				〃	〃	〃	〃	—
40	〃	〃				〃	〃	〃	〃	—
41	〃	〃				〃	〃	〃	〃	—
42	小島登一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
43	〃	市川忠雄	〃	〃	〃	〃	〃	—		
44	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小川弁蔵	—		
45	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
46	〃	小泉薫三	〃	〃	〃	〃	平本 薫	—		
47	〃	〃	〃	〃	〃	綾部義司	〃	—		
48	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
50	大津浩一郎	藤川 陸	〃	〃	〃	〃	〃	—		
51	〃	〃	〃	〃	〃	小川弁蔵	〃	—		
52	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
53	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
54	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
55	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
56	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—		
57	草柳頭一	細谷義夫	〃	〃	〃	山田武男	〃	所 実		
58	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
59	〃	〃	〃	〃	〃	矢野直吉	〃	〃		
60	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
61	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三橋 修		
62	鈴木万吉	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
63	〃	長嶋 寛	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
平成元	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
2	近藤俊二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	山田祐三		
3	〃	〃	〃	〃	〃	末改豊次郎	〃	〃		
4	〃	青木 薫	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	大木一夫		
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
8	青木 薫	上崎雄尚	〃	〃	〃	倉品滴洲男	〃	〃		
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
10	大木一夫	〃	〃	〃	〃	〃	〃	和田 央		
11	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
12	和田 央	相原 彰	〃	〃	〃	〃	〃	川口久雄		
13	〃	〃	〃	〃	〃	高橋幸一	〃	〃		
14	細野 博	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
17	〃	川口久雄	〃	〃	〃	〃	〃	関野 順		

伊勢原市立中学校 教頭

年 号	伊勢原 中学校	成 瀬 中学校	山 王 中学校	中 沢 中学校
昭和 52				
53				
54	小沢 幹	所 実	三橋 修	—
55	〃	〃	〃	—
56	矢野直吉	〃	〃	—
57	〃	久保篤範	〃	—
58	〃	〃	佐藤禎一	小沢正巳
59	小沢正巳	佐藤禎一	久保篤範	長嶋 寛
60	〃	〃	〃	〃
61	〃	〃	〃	〃
62	〃	〃	八木沼年雄	〃
63	末政豊次郎	〃	〃	近藤俊二
平成元	〃	〃	〃	〃
2	〃	〃	〃	柏木 平
3	青木 薫	渡辺 馨	〃	〃
4	倉品満洲男	〃	八木一夫	〃
5	〃	上崎雄尚	湯沢節夫	〃
6	〃	〃	〃	〃
7	相原 彰	〃	〃	倉品満洲男
8	〃	坂間一朗	〃	吉川雅子
9	〃	〃	相原 彰	〃
10	湯沢節夫	〃	川口久雄	〃
11	〃	〃	〃	〃
12	渡辺正巳	吉川雅子	小林 繁	坂間一朗
13	関野 順	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃	〃
15	坂間一朗	谷 澄夫	〃	関野 順
16	〃	〃	高橋俊一	〃
17	〃	〃	〃	佐伯正一

県立伊勢原高等学校 学校長・教頭

年号	西暦	就月	学校長	就月	全日制 教頭	就月	定時制 教頭
昭和3年(1928)5月21日創立 伊勢原実家女学院の校長として飯塚氏が赴任 引き続き県立伊勢原高等学校の校長を歴任 昭和26年(1951)4月2日退職							
昭和24	1949		飯塚藤太		—		—
25	1950		〃		—		—
26	1951	5	上島一夫		—		—
27	1952		〃		—		—
28	1953		〃		—		—
29	1954		〃	?	新倉 勇		—
30	1955	5	小林房次郎		〃		—
31	1956	9	小出一郎		?		—
32	1957		〃		?		—
33	1958		〃		〃	—	内山武雄
34	1959	1	片岡 誠		〃	—	山崎延太郎
35	1960		〃		〃		〃
36	1961		〃		〃		〃
37	1962	5	落合 涉	4	飯田一郎		〃
38	1963		〃		〃		〃
39	1964	9	徳崎 忠		〃		〃
40	1965		〃	9	有賀密夫		〃
41	1966		〃		〃		〃
42	1967		〃		〃		〃
43	1968	9	安藤利男	10	沼野哲司		〃
44	1969		〃		〃		〃
45	1970		〃		〃		〃
46	1971	9	三武泰次		〃		〃
47	1972		〃		〃	4	柏木博文
48	1973		〃	9	村山新平		〃
49	1974		〃		〃		〃
50	1975		〃		〃		〃
51	1976	9	佐藤 武		〃	4	武井孝郎
52	1977		〃	9	小俣正治		〃

年号	西曆	就月	学校長	就月	全日制 教頭	就月	定時制 教頭
昭和53	1978		佐藤 武		小俣正治		武井宍郎
54	1979		〃		〃		〃
55	1980	9	谷 哲郎	4	佐野三雄	?	水越半造
56	1981		〃	9	平賀輝夫		〃
57	1982	9	立野昌孝		〃		〃
58	1983		〃		〃		〃
59	1984		〃	4	杉田栄作	4	鈴木保男
60	1985	9	大戸吉古		〃		〃
61	1986		〃		〃		〃
62	1987		〃	4	沢田晴可		〃
63	1988		〃		〃	4	井上東亜
平成元	1989		〃	4	伊藤義雄		〃
2	1990	4	角田新之助		〃	4	家里泰寛
3	1991		〃		〃		〃
4	1992	4	樋口 貢	4	瀬戸治三	4	鈴木洋一
5	1993		〃		〃		〃
6	1994	4	市川三郎		〃	4	三杉克篤
7	1995		〃	4	兼頼邦久		〃
8	1996		〃	4	富樫茂雄	4	蔦瀬元晴
9	1997	4	生沼啓治		〃		〃
10	1998		〃	4	栗原 巖	4	矢野正人
11	1999		〃		〃	4	宮崎 弘
12	2000		〃		〃		〃
13	2001		〃	4	勝田邦男	4	山口健一
14	2002	4	山口健一			4	森本廣雄
15	2003		〃	4	菊池晃三		〃
16	2004		〃		〃	4	吉田敏令
17	2005		〃		〃		〃

県立伊志田高等学校 学校長・教頭

学 校 長				
年 号	西 曆	氏 名	就 任	退 任
昭和 51	1976	実方正義	昭和 51 年 1 月 1 日	
52	1977	"		
53	1978	"		
54	1979	"		
55	1980	"		昭和 56 年 8 月 31 日
56	1981	鈴木公明	昭和 56 年 9 月 1 日	
57	1982	"		
58	1983	"		
59	1984	"		昭和 60 年 3 月 31 日
60	1985	相田盛二	昭和 60 年 4 月 1 日	
61	1986	"		昭和 62 年 3 月 31 日
62	1987	山本修平	昭和 62 年 4 月 1 日	
63	1988	"		
平成元	1989	"		平成 2 年 3 月 31 日
2	1990	片岡誠一	平成 2 年 4 月 1 日	
3	1991	"		平成 4 年 3 月 31 日
4	1992	半田 進	平成 4 年 4 月 1 日	
5	1993	"		
6	1994	"		平成 7 年 3 月 31 日
7	1995	常盤正春	平成 7 年 4 月 1 日	
8	1996	"		平成 9 年 3 月 31 日
9	1997	込山英雄	平成 9 年 4 月 1 日	
10	1998	"		平成 11 年 3 月 31 日
11	1999	福島忠久	平成 11 年 4 月 1 日	
12	2000	"		平成 13 年 3 月 31 日
13	2001	坂寄孝雄	平成 13 年 4 月 1 日	
14	2002	"		
15	2003	"		平成 16 年 3 月 31 日
16	2004	風間健治	平成 16 年 4 月 1 日	
17	2005	"		

		教 頭		
年 号	西 曆	氏 名	就 任	退 任
昭和 51	1976	城川四郎	昭和 51 年 1 月 1 日	昭和 52 年 3 月 31 日
52	1977	秦 迪也	昭和 52 年 4 月 1 日	
53	1978	〃		
54	1979	〃		昭和 55 年 3 月 31 日
55	1980	二宮 健	昭和 55 年 4 月 1 日	
56	1981	〃		
57	1982	〃		
58	1983	〃		
59	1984	〃		昭和 60 年 3 月 31 日
60	1985	大木一郎	昭和 60 年 4 月 1 日	
61	1986	〃		
62	1987	〃		
63	1988	〃		平成元年 3 月 31 日
平成元	1989	榊田靖久	平成元年 4 月 1 日	
2	1990	〃		平成 3 年 3 月 31 日
3	1991	井上盛雄	平成 3 年 4 月 1 日	
4	1992	〃		
5	1993	〃		平成 6 年 3 月 31 日
6	1994	溝呂木正躬	平成 6 年 4 月 1 日	
7	1995	〃		
8	1996	〃		平成 9 年 3 月 31 日
9	1997	木曾満枝	平成 9 年 4 月 1 日	
10	1998	〃		
11	1999	〃		平成 12 年 3 月 31 日
12	2000	平野守孝	平成 12 年 4 月 1 日	
13	2001	〃		平成 14 年 3 月 31 日
14	2002	相原 洋	平成 14 年 4 月 1 日	
15	2003	〃		
16	2004	〃		平成 17 年 3 月 31 日
17	2005	石川康子	平成 17 年 4 月 1 日	

私立向上高等学校 学校長・他

「向上花一輪」の年表より

氏名	就任	摘要	退任
① 大井龍跳 (瑞雲寺住職)	明治40年4月	自修学舎 創立	—
	明治43年7月12日	自修学校 開校	—
	昭和16年5月25日	湘北中学校 改称 校長	—
	昭和22年4月1日	新制湘北中学校 校長	—
	昭和23年3月30日	新制湘北高等学校 校長	昭和23年7月3日 逝去
② 田代信二	昭和15年4月	教頭	—
	昭和23年7月3日	学校長事務取扱	—
	昭和23年8月30日	学校長	昭和29年4月1日
	昭和23年8月30日	理事長	昭和29年4月30日
③ 村上瑚磨雄	昭和29年4月30日	理事長	昭和40年2月28日
	昭和29年9月1日	学校長	昭和39年11月18日 逝去
五十嵐 豊	昭和39年11月18日	学校長事務取扱	—
官崎道世	昭和40年3月1日	自修学園理事長	—
④ 藤田俊嗣	昭和40年3月	学校長	昭和40年9月30日
猪熊 功	—	副校長	—
佐藤健造	昭和40年7月8日	自修学園學園長	—
⑤ 官崎道世	昭和40年10月1日	学校長	—
	昭和40年10月9日	向上中学校 改称	—
	昭和40年10月9日	向上高等学校 改称	—
	昭和41年10月13日	向上学園 改称	—
⑥ 三浦甲子二	昭和49年2月8日	学校長	—
		理事長	昭和60年5月10日 逝去
⑦ 官崎道忠	昭和49年4月9日	学校長	—
	昭和60年5月10日	理事長代理	—
	昭和62年4月1日	向上学園長	—
坪内嘉雄	昭和61年3月19日	理事長	—
⑧ 清水秀樹	昭和62年4月1日	学校長	平成16年現在
			—
			—
			—

注：①～⑧は学校長を示す

あとがき

高等学校の資料については、神奈川県高校教育課長下山田伸一郎先生、および、教育企画の林先生、伊志田高校の風間健治校長、相原洋教頭の両先生や、向上高校の河内秀雄先生等から多くの参考資料やパンフレット等をおいただきました。また、この橋渡しをしていただいた県議岩崎尊之先生等、多くの先生方の御協力で、高校について整理することが出来ました。

ここに紙面をもって厚く御礼申し上げます。

本稿について多大のご協力をいただいた櫻井勇氏（伊勢原市文化財協会理事）にも厚く御礼申し上げます。

平成十七年六月吉日

荻野 堯

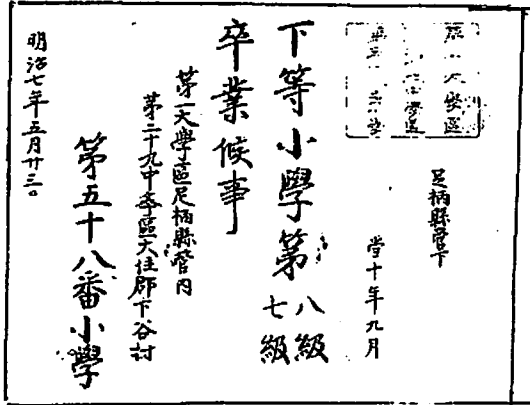
参考資料

伊勢原町勢誌……………伊勢原市教育委員会
 中郡勢誌……………神奈川県地方事務所
 教育要覧……………伊勢原市教育委員会
 創立六十五周年同窓会名簿……………
 ……伊勢原高等学校(神奈川県教育委員室高校教育課)
 伊志田(創立二十周年記念誌)……………伊志田高等学校
 伊志田高校案内……………神奈川県教育委員室高校教育課
 向上花一輪(自修、湘北、向上八十八年のみち)……………
 ……向上高等学校
 向上高校案内……………向上高等学校
 目で見る学校沿革誌……………伊勢原市教育委員会
 創立四十周年記念誌……………神奈川県公立中学校校長会
 創立七十周年の歩み……………高部屋小学校
 比々多百周年記念誌……………比々多小学校
 百年の歩み……………伊勢原小学校
 創立九十周年記念誌……………大山小学校

一〇〇年のあゆみ……………成瀬小学校
 十周年記念誌……………山王中学校
 創立十周年……………成瀬中学校
 写真で見る伊勢原、石田の100年……………
 ……石田商工振興会

大田小学校

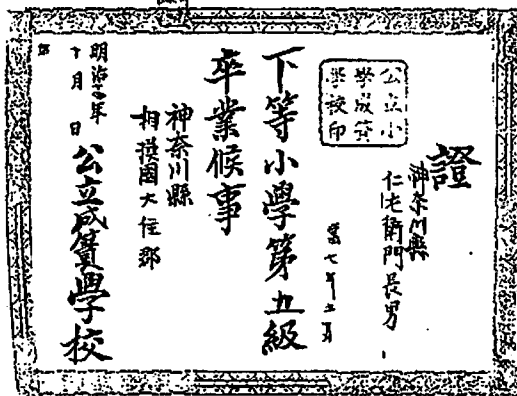
創立当時の卒業証書



明治初期小学校の修了証書 (明治7年・大田小学校)
大田小学校の前身第五十八番小学校の明治初期の修了証書。



▲明治初期小学校の修了証書 (明治13年・大田小学校)

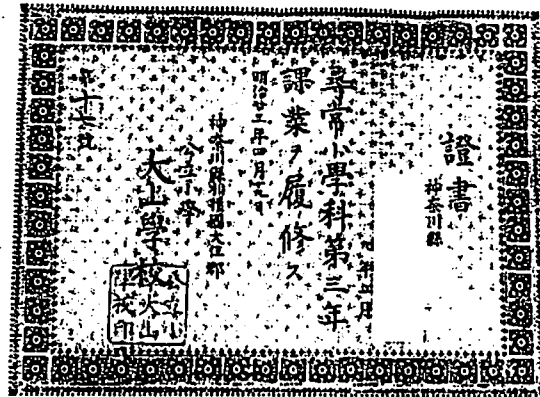


明治初期小学校の修了証書 (明治14年・大田小学校)
大田小学校の前身成實學校の修了証書。

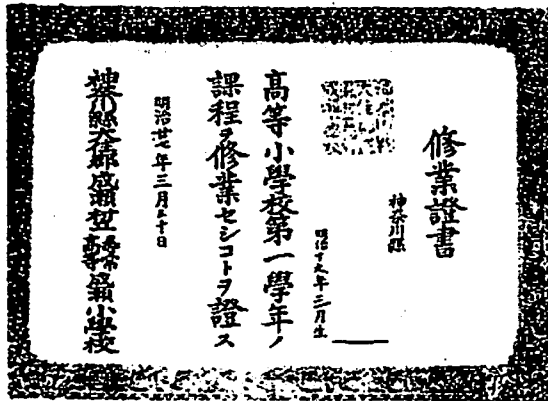
現成瀬小学校



▲公立小学鳳鳴学校 (明治25年・成瀬小学校)
下糟屋学校と高森学校を合併して高森村白金の台地に校舎を新築、公立小学鳳鳴学校として開校した。(明治12年5月20日)



▲修業証書 (明治23年・大山小学校)
明治時代の修業証書。学校の名称、修業年限等から現在の教育制度との違いがわかる。



▲明治中期の修業証書 (明治27年・成瀬小学校)
高等小学校第1学年の修業証書。

伊勢原市内の学校の所在地と電話番号

高等学校

県立伊勢原高等学校	田中一〇〇八	九五―二五七八
県立伊志田高等学校	石田一三五六一	九三―五六一三
私立向上高等学校	見附島四一一	九六―〇四一一

(定時制) 九二―二四二〇

中学校

市立伊勢原中学校	桜台四―二―一	九五―二五三九
市立山王中学校	上粕屋八〇四―二	九五―二三六二
市立成瀬中学校	高森二―二二―一	九五―一三〇九
市立中沢中学校	下糟屋二三―一―一	九四―五七五六

小学校

市立伊勢原小学校	伊勢原四―一―一	九五―二五一九
市立大山小学校	大山二〇九	九五―二〇一四
市立比々多小学校	神戸五二―一―一	九五―二三〇七
市立高部屋小学校	西富岡一〇九〇―一	九五―二五六九
市立成瀬小学校	高森一四八―一―三	九五―二三六〇
市立大田小学校	下谷一四七―一―一	九五―一〇六四
市立桜台小学校	桜台四―一六―一	九五―二七八七
市立竹園小学校	岡崎六六一―一―一	九三―四七一八
市立緑台小学校	高森四八二	九三―四七一七
市立石田小学校	石田一―六八―一	九二―八一一一